

サマースクールのお知らせ！

大昔のべつかい 土器づくり・まが玉作りに挑戦しよう！

古代の人々は、粘土で作った土器で食事を作ったり、石で作った勾玉を身に付けていました。そこには、たくさんの生活の知恵が込められ、苦勞もありました。古代の人々の生活に挑戦し、その知恵と工夫を学んでみませんか。

1. 日時 令和元年8月1日（木）
 - ① 午前の部 9：30～12：00
 - ② 午後の部 13：30～14：00
2. 内容 ①お話 ②体験活動 勾玉をつくろう
3. 場所 別海町郷土資料館
4. 対象者及び募集人員 小学生以上15名（親子参加可）
5. 参加申込 7月31日（水）までに、電話・FAX・メールのいずれかで、お名前・電話番号をお知らせください。



漁業ジオラマ3部作の完成・展示公開について

当館では、町の歴史や自然そして産業をわかりやすく解説するために様々なジオラマを作成しています。この度、漁業シリーズ第3弾として「西別献上鮭の定置網漁」ジオラマが完成しました。

西別川の鮭は、寛政12年（1800）に江戸の将軍に献上されて以来、良質の鮭として名声を博し現在でもそのブランド名は広く知られているところです。そうした鮭漁の様子をダイナミックにジオラマとして表現しました。ぜひ、ご来館いただき、これまで作成したジオラマと合わせてご覧いただきたいと思います。



「史跡旧奥行臼駅通所主屋」発掘調査から

●平成29年度の調査～その3～（郷土資料館だよりNo.239からの続きです。）

中央棟（明治36年（1903）～明治43年（1910）駅通所創建時）の様子。図では、ピンク色の部分

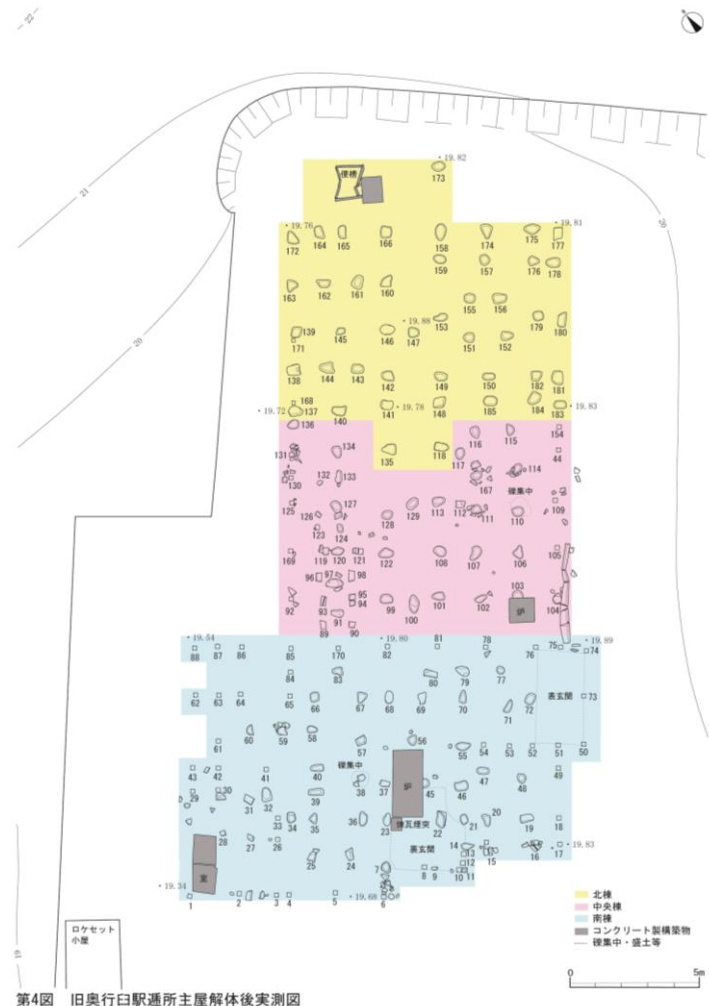
中央棟は、礎石がほとんど自然石玉石だった北棟とは、対照的に自然石玉石、切石、コンクリート基礎、コンクリートブロックと様々な礎石を用いていました。明治36年（1903）から創建時の明治43年（1910）の建物の位置に想定される場所ですが、色々な礎石が使用されているということは、何度かの改築の結果であるということかと思えます。

調査した礎石の内、地業が有るものは、26個ありました。その他に、柱穴、土坑集石を検出しました。

礎石の配置は、建物内は、自然石玉石の礎石が設置され、東西側外周は、コンクリート基礎でした。

礎石地業は、同じ自然石礎石でも、根石の設置方法に違いが見られ、下部に切石、上部に円礫、下部から上部まで切石と円礫を混同したパターンがありました。コンクリート基礎は、礎石底部に切石を設置し、円礫、切石、コンクリート片、コンクリートが付着した円礫を根石としていました。また、礎石地業がなく切石で礎石を固定するものもありました。このような礎石や礎石地業の違いは、駅通所創建時から使用されている中央棟の改築などの変遷にあてはめられるものではありませんが、コンクリート礎石は、

礎石地業の施工を見ても粗雑な点が見受けられ、施工の時期に違いがあるように思われます。



第4図 旧奥行臼駅通所主屋解体後実測図



自然石礎石の地業



コンクリート礎石の地業

別海町郷土資料館だより No.240

発行日 令和元年7月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

ジオラマ作りも今回で9作目となりました。3人の臨時事務員さんが作成しているものです。

さて、国史跡奥行臼駅通所などを巡る講座を開催します。今年度から一般公開され、沢山の人が訪れているようです。この機会にぜひ、ご参加ください。(K.I)